

ふるさと わがまち わが地域

“もてあい”の心で村づくり

世帯数 19世帯
人口 37人
(平成26年5月末)

鞍内(くらうち)地区260704

前回より(25/2)より
人口 ▲4人



★地区概要

鞍内の地名は、諸説ありますが山の上から見ると、馬の鞍の形をした家がたくさんあったとか、牛の鞍のような形をしていたから名前がついた、とのことです。昭和30年10月には、33世帯、171人が生活していました。地域外への転出が進み人口減に歯止めがかからず、地域の心のよりどころである虎杖(いたどり)小学校(鞍内・三山・小脇・竹久僧)も学校再配置により平成3年(1991年)に119年という学校の歴史に幕を閉じました。地域の農地(稲作)も耕作者の減少の中、助け合い支えあいの“もてあい”(方言で助け合い)の精神で、米づくりが続けられています。



鞍内ふれあいセンター

鞍内ふれあいセンターは、地域の交流の場の虎杖(いたどり)小学校が統合されたことから、地域の強い要望のもとに建設され、地区の行事や鳥獣被害防止対策、また、鞍内キャンプ場の運営及び今後の鞍内地区のあり方について検討する活動拠点となっています。



鞍内 キャンプ場

いたどり
虎杖小学校校舎跡地に30台駐車可能
問合せ先は0772-76-0549へ

いたどり
こわき いたどり

平成5年虎杖小学校跡地(住所、小脇板取33番地)を利用し、地域活性化の一環として取り組んでいる緑豊かなキャンプ場です。各種団体の野外活動(水遊び、餅つき、流しそうめん、鮎釣り、竹細工)に最適です。開場期間は4月～10月までです。皆様のご利用をお待ちしています。なお、虎杖(いたどり)の由来は、地名の『板取(いたどり)』が校名に適していないとの判断がされ、枕草子第百五十四段より『虎杖(いたどり)』という文字を引用したものです。(虎杖(いたどり)小学校記念誌より)

枕草子(第百五十四段)
見るにことなることな
きもの文字に書きて
ことごとしもの覆盆子
鴨頭草。芡。蜘蛛。胡桃
文章博士。得業の生。皇
太后宮権大夫。楊梅。い
たどりはまいて虎の杖と
かきたるとか。杖なくと
もありぬべきかほつきを

見ればたいしたものでもないのに文字を書くと、おおげさな感じのするもの。いちごは覆盆子。つゆくさは鴨頭草。水ふぶきは芡。くもは蜘蛛、くるみは胡桃、文章博士(もんじょうはかせ)。得業の生(とくごうのしょう)、皇太后宮権大夫(こうたいごうぐんのだいぶ)、山ももは楊梅と、すべて漢字で書くと、字面がなんとなくぎょうぎょうしい。

いたどりは虎の杖と書くらしいが、虎の杖などなくてもよさそうな顔つきの動物なのに。

(引用 大庭みな子 少年少女古典文学館4「枕草子」講談社1991)



八柱神社



素盞雄命(すさのをのみこと)を祭る。



永い歴史と伝統を誇る「宇川牛」の隆盛の復活に取り組んでいます。



現在宇川牛を20頭飼育しています。

文化と歴史



三柱神社



火産彥神(ホムスビ)
奥津比古神(オキツヒコ)
奥津比女神(オキツヒメ)



ほ場整備された農地



鞍内区水源ポンプ場

昭和5年の文字

旧鞍内橋の欄干の一部



鞍内橋(平成9年3月)

大型車も通行可能となりました。



土砂流失を防ぐ砂防ダム



愛宕神社



六地藏さんが本来ですが、区民の皆さんの慈しみの心で3体増えました。右側のお地藏さんは顔をやや右側に傾け、右手で右ほほを押さえておられます。歯の痛みに耐えておられるような、あるいは人々の哀しみを、深い優しさで聞き入ってくださるような表情がうかがわれます。

子供達の通学用のバス待合所。
郵便ポスト。なかに、お地藏さんが子供たちの安全を見守るため安置されています。



アユ・ヤマメなどの遡上魚
アユカケ・カジカガエルなどの生息地です。
(平成4年9月29日京都の自然200選に選定)
また絶滅危惧種のニホンウナギも生息しています。(区長談)



石積による護岸工事





鞍内キャンプ場入口
(虎杖小学校正門跡)



いたどり
旧虎杖小学校跡



奥にはキャンプ場があります。



炊事場



管理棟



テントサイト



ファイヤーサークル



提灯を設置して夜桜を愛で宴を催します。
近くに六地藏があります(撮影26/4/7)。